

保護ツル特集

現在飼育中の8羽について



現在鶴保護センターでは、3月27日に新たに移送された保護ツル6羽と、平成20年度より飼育を行っていた2羽のツルとあわせて8羽のナベヅルを飼育しています。保護ツルの移送が開始されてからの最大羽数となる8羽のツルの飼育しているツルについて、飼育の状況を簡単に紹介をしようと思います。

1 現在飼育中のツルの紹介

3月27日に移送されたツルについては、別に紹介をしているものがありますので、ここでは、平成20年度に移送された4羽の内、現在も継続して飼育されている2羽について簡単に紹介します。

○08-1R

平成20年4月12日に移送されたツル。このツルは年齢が分かっており、今年で3歳になります。性別はメスです。飼育員に言わせると、かなり落ち着いて堂々としているツルとのことです。

○08-3B

同じく平成20年に移送されたツルです。性別はメスで、正確な年齢は不明です。米が大好きなツルで、その他ワカサギなどもよく食べます。

ちなみに、ツルの名前の付け方ですが、移送された年度（上記のツルなら2008年度なので“08”）、

保護センター内での識別用に取り付けられたナンバーリングとカラーリング（1R＝ナンバーリング“1”とカラーリング“赤（Red）”）を組み合わせでつけられています。本年3月に移送された6羽には、09から始まる名前がつけられています。

2 夏の飼育

八代でも連日30度を越える日が多くなり、

人間ばかりでなくツルにも厳しい季節がやってきました。この時期にケージ内の温度

を下げるなど、ツルにとって快適な環境を作り出すことで、早期の放鳥を目指しています。

ケージは野外に設置されているので、気温を下げるために使用されているのが“スプリンクラー”です。霧状の水を散布することにより、気化熱によって周囲の温度を下げるほか、風を呼ぶ効果もあり、作動と同時にかなり涼しくなります。また、ツルによっては、直接水にあたるといった水浴び用に使うなど、本来の意図（気温を下げること）とは違う使い方をしているものも出てきて、それぞれ暑さをしのぐ方法を考えているようです。スプリンクラー以外の対策としては、天井部分に日除けを設置するなどしています。

3 エサ

米、麦、ツルペレットといったエサのほか、ワカサギ、ミルワームなどの動物質のエサをバランスよく与えています。ただ、ツルによって好き嫌いがあるようで、米はよく食べるけど麦はあまり食べないツルや、ツルペレットが好き、ワカサギが好きといったように、個性があるようです。昨年のツルの里だより28号では、新しいエサとしてキイチゴ類を与えるなどしたことを紹介しましたが、ツルの状況に応じて新しいエサや季節に応じて採取が容易になる野菜類などを与えるなど、ツルの栄養状態の管理に細心の注意をはらっています。

4 今後の飼育について

ツルの栄養状態や、換羽などに注意をして、一日でも早くに大空へ飛び立てるように飼育を続けて行きます。ツルの飼育や治療の現場は、ツルが臆病な性格もあってなかなかお見せすることができませんが、少しでも様子が分かるように今後も紹介できたらと思います。

ツル保護研究員 増山 雄士



飼育係の1日を、綴って見ました。

朝8時監視モニターのスイッチを入れることから、鶴飼育の1日が始まる。最も緊張する瞬間である。各ケージ内の鶴の動きを目で追いながら、異常の有無をチェックする。池の辺りに集まって羽繕い。一本足で寝ているか。朝日を浴びて佇んでいるか。草の中を、虫を探して歩き廻っているか。通常のパターンを確認すると、ほっと一息なのです。丁度、渡来した野鶴が、定刻に、同じ方向（埜）から、同じ田んぼに降り立って、1日が始まるのと同様です。

落ち着きなく、フェンスの前を往来する。首をあげて周辺を伺って、歩き廻っている。等々は、何らかの異常と判断して、原因追及の動きをしなければなりません。

スイッチを入れて数分経過、その日の運命が決まります。無事な1日の始まりに感謝し、モニターを見ながら鶴の行動を、記録して行きます。鶴毎に、分単位で、場所と動きを。

(1) 8時10分 黄の鶴 ⑥～⑩へ歩く。

(2) 8時15分 緑の鶴 1池で飲水。等々。

鶴の動きが安定する頃、鶴との接触時間を極力少なくするように、前準備をする。病院の配膳係の如く、ケージ毎の餌箱に穀物（米、麦、粳）、ペレットをカップで計量して盛り合わせる。魚を解凍して仕分ける。最近の鶴の食欲を考慮して、日々量を調整する。鶴たちの食べ方に思いを巡らせて。タンパク源は、色々工夫されており、今の季節はワカサギである。池の淵に並べると一斉に寄って来る。水で洗って食べる。他の場所へ運んで飲み込む。穀物は順番に好みの物をつつく。殆どが米である。魚も穀物も食べる量は、大体平均している。親子、夫婦でもない関係の中で、争うこともなく食べる。十分な量を与えているか定かではないが、鶴たちのバランス感覚に感心する。

ケージ内作業に入る。鶴を驚かせて飛び立たせないように。直接目を合わせないように、横目で様子を見ながら鶴との安全距離は、ケージにより異なるが10～15mを確保したいものです。餌箱の交換をする。ケージ内の糞、異物の回収。特に換羽期は、抜けた羽の回収を慎重に行う。雑草を除去する。夜間、鶴たちは池の中で寝る。水中の糞の有無、量、色を記録する。通常使用する池が替わっていれば、昨夜のトラブルを想定しなければならない。雨にも負けず、風にも・・・、休むことなく水を入れ替え、池床のブラッシングをして、藻を除去する。飲水、水浴びなど利用頻度が多い池が、滑らないように。各ケージの池は合計6個、安全対策上必要な数である。清掃された池の淵に、ワカサギを並べてケージを退出する。ケージ毎に餌箱の残量を、品目別に計量して記録する。餌箱を常に清潔に保つ為、水洗し乾燥させる。午前中の作業終了である。

監視、記録業務が続く。狭いケージ内で、歩く、走る、飛ぶ、寝る、ダンスする、等の行動は、パターン化しているようで、日、時によって変化する。上空を鳩が、鳥が、雀が群れて飛ぶ。グラウンドの声援が聞こえる。農具が唸る。雨、風が竹林を揺らす。その都度大袈裟に反応する鶴たち。だから目が離せない。

夏の時期、鶴に開口呼吸が見られると、ケージ内のスプリンクラーを作動させる。雫に濡れて、それぞれが体温を調整する。濡れ鶴の姿を見ると、自然に近い飼育だと納得するのです。リーダー格の鶴が現れ、アウトローの鶴が出て来る。飛行距離を最大限に取って、集団で飛ぶ。気の合った仲間と飛ぶ。単独で飛ぶ。一緒に餌箱をつつく。一緒に虫を探して歩く。平素行動を共にするか、嘴で突き合う間柄に発展するか、注意して観察する必要があります。

初めて過ごす八代の夏。朝夕の快適な涼しさを、鶴たちは、日々積もるストレスの中で、感じて欲しいものです。鶴毎に一日の行動、体調の変化等を日記に記入して、1日の飼育業務が終了する。

明日の無事を祈りながら、モニタースイッチを切る。

